

中学校 発問検討ワークシート（入力後）

①教材名	世界を動かした美	②内容項目	D よりよく生きる喜び
<p>③教材分析 (中心発問で考えさせるために押さえておきたいこと)</p>	<p>主人公：オードリー・ヘプバーン</p> <p>幼少期～俳優になるまで →十代の多感な時期にナチス・ドイツの占領下で恐怖の生活を強いられる ←世界からの支援 →パレリーナになるかと頑張るが背が高すぎるなど理由で夢破れる</p> <p>俳優として →夢をかなえ、スターとなるが…… →本当の自分ではない、スクリーン上の姿への称賛 挫折 ↓表舞台を離れ、スイスでの家族との生活へ</p> <p>ユニセフの親善大使として *ユニセフの活動に目覚める 危険でも、体力が消耗しても紛争地へ行く ←</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">「飢餓に苦しむ世界の子どもを救いたい」 自分の言葉で世界にメッセージを発信する</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 20px;">オードリーの強さ、 気高さ</div> <p>生徒もオードリーのことを知らないので、調べた情報を伝えたり、予備知識を与えておいたりするのも大切。 3年生最後のほうの教材。これまでの集大成。どんな心構えで授業すべきか →単に「すごい人」で終わらせないように。「人間とはこういうものだ」と自分に引き寄せて考えられるように。オードリーが特別な人、ではなく。</p>		
<p>④ねらい (この教材で生徒に考えさせたいこと)</p>	<p>オードリー・ヘプバーンの人生をとおして、私たち人間は完全な存在ではなく、それぞれに弱さがあるとともに、よりよく生きようとする強さや気高さもあり、自分の生き方を貫くことで生きる喜びが得られることを理解し、自分自身の生き方について考えを深めようとする心情を育む。</p> <p>→ねらいを具体的にすることで、先生と生徒が迷子にならないように。 (主題名：生きる喜び)</p>		
<p>⑤中心発問 (ねらいを達成するための発問)</p>	<p>オードリーが生前大切にしていた詩 大人になると気付くことがあります 両手のうち一つは自分自身を助け、もう一つの手は多くの人を助けるためにあると という詩に、オードリーはどのような思いを込めていたのだろう。</p> <p>→自分自身が過去助けられた今の自分がある →多くの人役に立っている →紛争地帯の子どもを助けることで、自分自身も救われている →名声のため？ →最初の俳優活動は地位などもあったが、紛争地の活動は、自分が突き動かされた行動。自分の生き方を貫く。私利私欲ではなく</p>		
<p>⑥補助発問</p>	<p>オードリーにとっての「生きる喜び」とは何だったのだろう。</p> <p>→オードリーを通して考える。 →中心発問を経ることで、オードリーの強さ弱さ、生き方について考えられる →自分の生きた証、などの意見が出てくる →「生きる喜び」という言葉は教材に出てこないが使ってもよいか？ →急に出てくると生徒にとって戸惑ってしまう。 →導入で、「生きる喜びってどんなことだろう」と問う。</p>		

※発問検討の記録です。動画で紹介していない部分も含まれています。
※記録のため、誤字脱字などが含まれている場合があります。

	<p>→めあてを立てておくことで、生徒にとっては「生きる喜び」を聞いているので、唐突に問われることなくなる。</p> <p>→内容項目を問うことはよい？</p> <p>→授業の最初に思ったこと before、中心発問などを経た後に思ったこと after で深まっていることが大事。</p>
<p>⑦振り返りの発問</p>	<p>人間の生きる喜びとはどのようなことだろう。</p> <p>→導入で「生きる喜び」を聞いておくことで before、after が可視化される。自分たちで考えたことなので、生徒の手柄になる。</p> <p>→オードリーについての理解に終わらない。</p> <p>(生徒の反応)</p> <p>→弱さを持っている自分だが、生き方を貫くところで喜びが生まれる</p> <p>→多くの経験をして、自分の生き方に誇りをもてるようになる</p> <p>→生徒の日常会話で「生きる喜び」などの言葉は出てこないが、ねらいをもって授業をすることで出てくることを期待して。</p>
<p>⑧導入発問、基本発問 (中心発問にいたるまでに押さえておきたい発問)</p>	<p>導入発問：生きる喜びってどんなことだろう。</p> <p>→いい人生を送ること？ 楽しい人生？ お金持ちになる？ (before)</p> <p>→最初に押さえることで深まりが実感できる。</p> <p>→補助教材を作って、教材理解を深める工夫をしたい。短い時間で。</p> <p>オードリーの本を教室に置いておくなど。</p> <p>基本発問①：どんなに売れても、人気は泡のようにむなしく、心を満たすことはなかったのはなぜだろう。</p> <p>→俳優時代に評価されても、本当の自分を評価されていない。自分はこれでいいのかと迷うような生徒の反応を期待。</p> <p>→強く見えても、人間には弱い部分がある。見えない苦悩があったことに共感。</p> <p>基本発問②：オードリーは、どうして紛争地域を訪問し、活動しようと思ったのだろう。</p> <p>→紛争地域に行って、何が大切かに気づいた。自分の役割ではないかと気づいた。</p> <p>→確認程度で、時間をかけすぎないで、中心発問に入る。</p> <p>終末</p> <p>→Before、after で振り返るのもよいし、授業の感想をすこし書く程度でもよい。</p>
	<p>よりよく生きる喜びはもともと中学校のみ。教科化で小学校・中学校の系統性発展性を考えて、小学校・高学年に新設。</p> <p>人間や自分を客観的に見つめられる発達の段階に置かれている。生徒が自分に置き換えながら、自分を見つめながら進められるようにする。共感的に、人間とはを考えていく。</p> <p>短絡的に「生きる喜びとはなんだろう」と聞くのではなく、導入から終末まで一貫して問うことの大切さ。3年生最後に生徒と考える楽しみ。</p>